淡路島のかくれた地域資源である「馬」

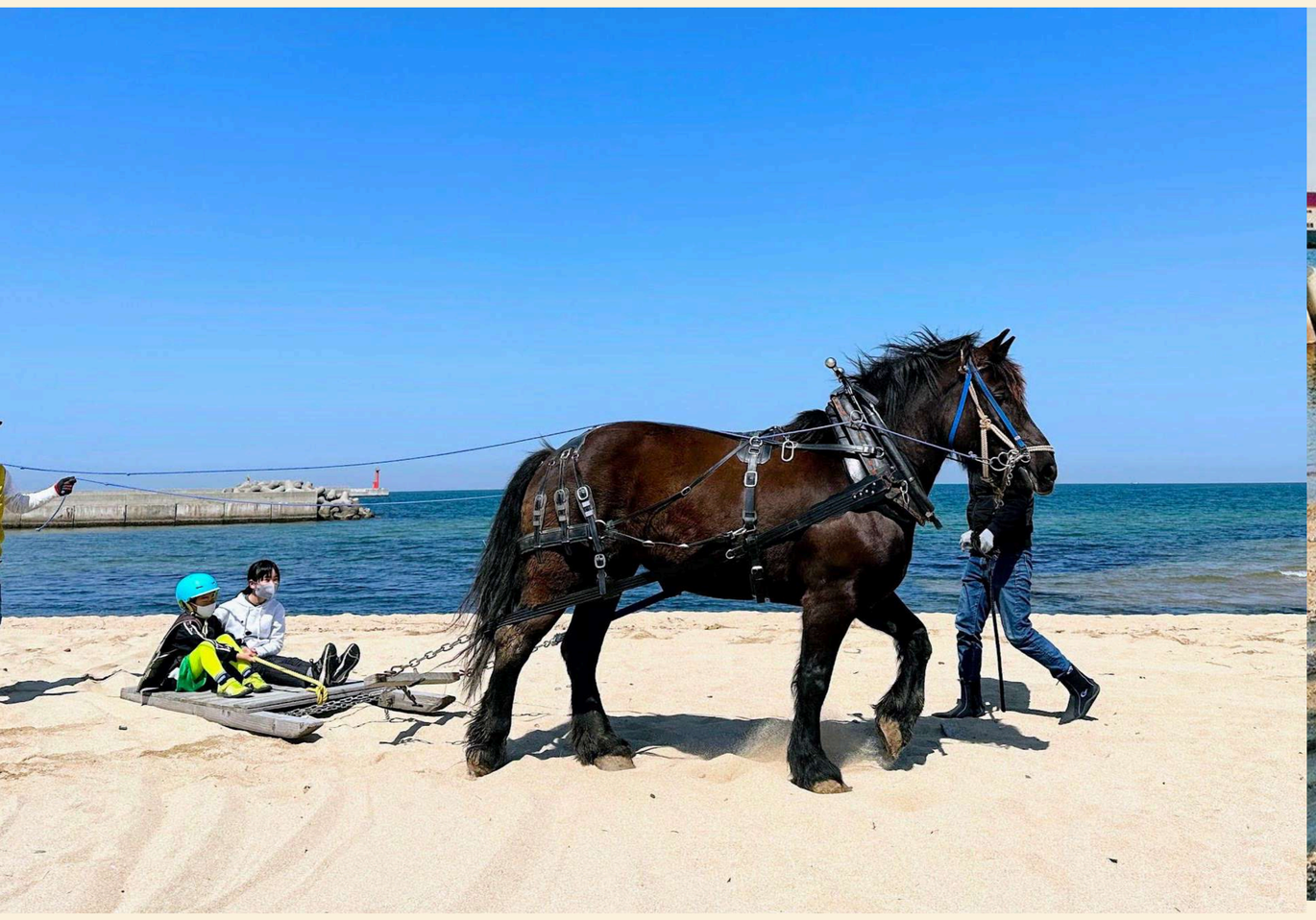
　みなさんは淡路島はかつて馬産地だったというのをご存知ですか？
洲本の三熊山には小さな競馬場があったり、大浜海岸には観光貸し馬事業が営まれ、沢山の馬が洲本の街中などに存在していました。時代が変わり、機械や車の登場によって私達のくらしから馬という存在は遠ざかっています。

人と馬との関係性をウェルビーイングなものに

　そんな中シェアホースアイランドは、
「人と馬との関係性をウェルビーイングなものにアップデートするPJ」
に淡路島で取り組んでいます。観光牧場として２０１６年頃から始まり、現在大きな農耕馬「風月」と、引退競走馬の「アネロワ」の2頭の居場所を失った保護馬が五色町の都志の里山でゆったりと暮らしています。現在はそれぞれの特性を踏まえた活躍の場を創り出しています。

これまでの活動

ふれあい体験や乗馬はもちろん、「馬場BAR」、「馬耕復活（馬と育む米作り）」や馬搬、ホースボード（馬ソリ）による「馬とのビーチクリーン」など、他所では体験できないユニークな馬との関わりを提供しています。



シェアホースと洲本の域学連携

これまで受け入れた大学生とプロジェクト

京都造形芸術大学　馬場BAR

武庫川女子大学　馬とのビーチクリーン
ラッキーホースのご利益米作り
ばふんペーパーお守り　等

龍谷大学　馬とのフォレストクリーン
里山保全（馬搬体験）

他　日本大学、名古屋大学、同志社大学　等

総勢　27名

域学×保護馬

馬×マナビ

これからについて　コミュニティと研修

「馬を軸にしたコミュニティを育む」ことを取り組もうとしています。
また馬とのコミュニケーションをベースにした「ホースコーチング」や「馬の習性から学ぶリーダーシップ＆チームビルディング研修」等を提供して行くことをシェアホースアイランドは目指しています。